

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2020.1.1 Vol.41

脳の病気について



川口市立医療センター
イメージキャラクター 「みみたーず」
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します

「緩和ケアチーム」の活動

緩和ケアとは

がんに伴う痛みをはじめとする体のつらさだけでなく、気持ちのつらさ、生きがいに関するつらさに対するケアのことです。

一般的に、緩和ケアは、抗がん剤治療ができなくなった時に受けるものと考えられがちですが、つらさはがんと診断された時から次第に増していく場合もありますので、早期から行うことがよいといわれています。

緩和ケアチームとは

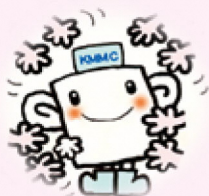
当センターには、緩和ケアチームがあり、痛みやその他のつらさ（息苦しさ、吐き気、だるさ、気持ちのつらさなど）に対応するため、主治医と協力してがん患者さんのご家族のサポートを行っています。

チームメンバーは、身体症状および精神症状を担当する医師、がん専門を担当する看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、カウンセリングを担当する公認心理師、検査技師、医療・福祉相談を担当する相談員で構成されています。

緩和ケアチームにかかるには

主治医がより専門的な緩和ケアを必要と判断した場合に介入が始まります。

患者さん、家族の皆さんが緩和ケアチームの介入を希望される場合は、主治医や看護師にお気軽にご相談ください。



緩和ケアチームの活動

診療やカウンセリングのみならず、緩和ケアの提供体制の整備に向けて、がん診療に携わる全ての医師、その他の職種が緩和ケアを行えるように、年数回の研修を開催しています。また、医療用麻薬を使用している入院中の患者さんの病室を訪問し、痛みの状況等の確認を行ったりしています。

脳の病気について

脳神経外科では脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷などを扱っています。当科の特徴は、直達手術と血管内手術の両方ができることです。常勤医が5名おり、多数の学会専門資格を有している研修施設です。2018年4月に、埼玉県内で大学病院以外では初めてとなる日本脳神経血管内治療学会の研修施設に認定されました。

2018年に最新の血管撮影装置が導入され、患者さんからの要望も高い、切らずに治すことのできる血管内治療を積極的に行っています。

治療は時間との戦い

脳卒中は、突然に半身麻痺や呂律障害、意識障害が生じて倒れる病気です。

脳卒中のうち、多くを占める脳梗塞は、急性期に治療するかどうかで命運が分かれます。時は金なりという言葉があ



りますが、脳梗塞は時間経過とともに脳細胞が失われていくため「タイムイズブレイン（時は脳なり）」と言われる。血栓溶解薬（t-PA）の静注治療は発症から4.5時間以内のみ治療が可能です。

救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れて脳卒中担当医師が血栓溶解療法を開始できる施設を「一次脳卒中センター」とする制度が2019年9月から始まり、当院も初回から認定を受けています。

また4.5時間を超えても血栓を回収する特殊なカテーテルを用いた血管内治療が可能です。「脳卒中治療ガイドライン」では、6時間以内の血行再建術が「行うよう強く勧められる治療」と規定されたグレードAで推奨されています。また、同ガイドラインの2019年の追補では、適切な治療適応を判断すれば24時間までの再開通治療が「行うよう勧められる治療」と規定されたグレードBで勧められるようになりました。

血管内治療は限られた医師と施設でのみ可能なため、2018年1月から「埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）」が運用されました。発症から7時間以内の脳卒中と救急隊が判断すると、基幹病院に直接に救急要請を行うホットライン体制が整備されています。埼玉県南部医療圏では、当院と済生会川口総合病院と戸田中央総合病院が基幹病院になっています。

当科では、2018年に29例の血行再建治療の治療実績があり、患者さんの死亡率はわずかに3%、3か月後に自立した生活ができる人は52%もありました。

この治療ができる前は死亡率が30%もあり、自立した生活のできる人はわずかに20%程度しかいませんでしたので、画期的な治療法といえます。脳血流を再開することで、溺れかけている脳細胞をいかに早く救うかが大切といえます。

脳梗塞は心筋梗塞と違って痛みがないため我慢する人が多いのですが、半身のまひや手足のしびれ、言語障害が出た際には直ちに救急車を要請してください。



はじめよう！ 誤嚥^{ごえん}予防で食事を楽しく

「誤嚥性肺炎」という言葉を耳にしたことはありませんか？

誤嚥性肺炎は、食べ物や口の中の細菌が誤って肺に入ることによって生じます。特に、加齢や脳卒中の後遺症など飲みこむ力が衰えてくると起こりやすくなります。また、寝ている間など気がつかないうちに唾液や胃液が肺に入り、肺炎になることも少なくありません。

最近、食事中にこんなことはありませんか？

～飲み込みチェック～

- お茶や味噌汁でむせることがある
- 食べ物や薬がのどに詰まりそうになる
- 食事中に口からこぼれやすくなった
- 食べ物が口の中に残りやすくなった

～ひとつでも当てはまったら、こんな工夫があります～

- お茶や味噌汁にとろみを付けてむせを減らしましょう
- いつもの食事より軟らかく調理しましょう
- お口に入れる量を少なくしましょう

～誤嚥予防に「お口の体操」をやってみましょう！～

コツは口を大きく動かすことです



口笛を吹くように「ウー」



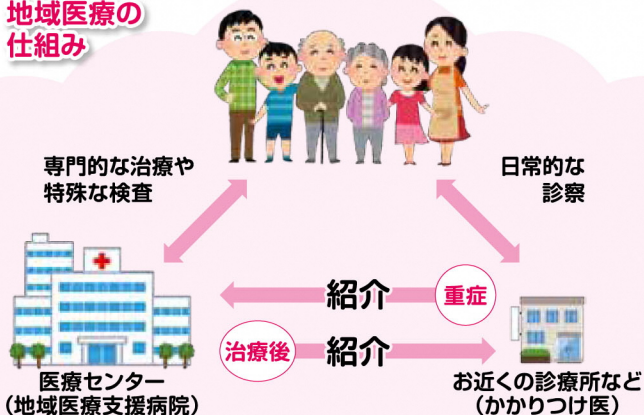
歯を見せて「イー」



舌を前に「あっかんべー」

食べる時と話すときに使う筋肉はほとんど同じです。楽しくお話をすることは誤嚥予防につながります。これからもおいしく食事を食べるために、ぜひ皆さんで取り組んでみてください。

地域医療の 仕組み



バス案内(国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス(川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525(代表)



ホームページ